

仙台大学 広報室



Monthly Report

女子サッカー部、MF加賀孝子がユニバーシアード日本代表に選出される



左から黒澤尚監督、加賀選手、本多純子コーチ=仙台大学サッカー・ラグビー場

かがこうこ

本学女子サッカー部のMF加賀孝子（スポーツ情報マスメディア学科2年一ジェフユナイテッド市原・千葉レディース出一宮城・聖和学園高校出）が、7月5日（金）にロシア・カザンで開幕する「第27回ユニバーシアード競技大会」の女子サッカー日本代表に選出されました。

加賀がサッカーを始めたのは5歳から。聖和学園高校3年時に主将を務め、3年連続で全国高校選手権に出場。高校2年時には同選手権3位の成績を残しました。その後、なでしこリーグのジェフユナイテッド市原・千葉レディースで3年間プレー。もう一度プロの舞台に立つこと、教員免許を取得することを目標に仙台大学への進学を決意しました。

ユニバーシアード日本女子代表に選ばれた加賀は、「国際大会は初めての経験。自分の持ち味である足元の技術を生かし、ゴールを狙ってチームの勝利に貢献したい」と意気込みを語り、「目標は優勝」ときっぱりと語りました。

ユニバーシアード日本女子代表チームのGKコーチとして帯同する本学女子サッカー部の黒澤尚監督は、「チームとして優勝を目指す。加賀はボール奪取能力が高い選手。得点に絡むプレーを期待したい」とエールを送りました。

なお、ユニバーシアード日本女子代表チームは、7月5日（金）グループリーグ第1戦エストニア、7月7日（日）同2戦イングランド、7月9日（火）同3戦ブラジルという対戦スケジュールが組まれています。

< 目 次 >

女子サッカー部、MF加賀孝子がユニバーシアード日本代表に選出される	1
東京おもちゃショー2013本学から「認知動作型トレーニングマシン」で出展	2
地域連携事業報告「みんなで行うレクリエーションの楽しさについて」	3
チリ・ブラジル報告	4
2013新体操競技部ベラルーシ短期研修報告	4
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
 Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

震災復興記念プールが完成



①

5月31日（金）、東日本大震災で使用が不可能になっていた室内温水プールが完成し、鹿島建設株式会社から仙台大学に引き渡され、「震災復興記念プール」と命名されました。

震災復興記念プールは、25m×8コースで、ダイビング用プール槽（深さ3m）を備えています。さらに、同記念プールの屋根に太陽光発電システムを設置して作られた電力を同プール設備内において利用すると共に、発電量等を示す電光表示板を設け、学生及び教職員への啓発を行います。太陽光発電の導入により、太陽エネルギーの利用拡大による二酸化炭素（CO2）削減に貢献していきます。



②



③



④

①震災復興記念プールの外観
②③内観（25m×8コース）
④ダイビング用プール槽

東京おもちゃショー2013へ本学から「認知動作型トレーニングマシン」で出展



上下：東京おもちゃショーでの本学の様子

国内外148社より約3万5千点のおもちゃを一同に集めた展示会となっています。一般公開日の来場者は15日が67千人で16日が73千人と2日間で14万人との盛況ぶりでした。その中で子供文化の発展に賛同する企業や団体を集めた「キッズライフゾーン」に昨年に引き続き本学は出展しました。

今年の展示内容は昨年同様、パーテーション掲示として本学PRパネル（「大学紹介」1枚、「災害ボランティア」3枚、「東北こども博」11枚、「認知動作型トレーニングマシンシステム」4枚の計19枚（その他「東北こども博」報告書を設置））を掲示し、併せて今年は、「運動会で一等賞をとるためのマシン体験 ～誰でも足は速くなる～」のキャッチフレーズで「認知動作型トレーニングマシン」と「ランニングマシン（トレッドミル）」（早川公康准教授担当）を展示しました。

参加スタッフとして、早川先生と学生スタッフ3名、保守点検業者2名、千葉コンサルタントと学生支援室の西塚室長の合計8名で対応しました。

当日は小学生中心に老若男女が各マシンにチャレンジし、1人当たり2分～3分の利用でその数、1日当たり300人で合計600人程度と、行列が途絶えることなく大盛況でした。

「東北こども博」共催の社団法人日本玩具協会が主催する「東京おもちゃショー2013」が、6月13日～16日（一般公開は15日と16日）まで東京都江東区有明の東京ビッグサイトにおいて開催されました。

<報告：学生支援室 室長 西塚重良>

地域連携事業報告

平成25年度 第1回仙台大学連携協力事業・講習会

「みんなで行うレクリエーションの楽しさについて」



6月14日（金）の午前10:00～11:30第1体育館にて、本学が連携協定を結んでいる大崎市からの要請を受け表題の講習会を仲野・岡田が実施いたしました。平日ということもあり、1名を除き全員が女性の方でしたが、みなさんそれぞれ地域において震災復興に関わっている方々のようでした。

先方からバスで本学を訪れてくださったこと、また現在教育委員会に勤務していらっしゃる本学卒業生が来られたこともあり、人数は少数でしたが、講習会自体は大いに気合いを入れて実施いたしました。なお、担当した仲野は、大崎市スポーツ振興計画策定に当たり1年間実行委員会のアドバイザーを務めました。岡田先生は、現在大崎市のスポーツ推進委員を務めておいでです。

当日の講習会の内容は、参加された方々が地元に戻られリーダーとしてレクリエーションの支援を実施されることを想定し、楽しさ・面白さの演出並びに人と人との交流のフローとその演出方法について、ゲームメニューの資料も用意したうえで仲野が実演を通して理解を深めてもらうというものでした。また、身近なものを使って楽しめるレクゲームについても紹介いたしました。最後の5分間で楽しさの本質である「フローの概念」や「グループダイナミクス」について、野外教育の専門家である岡田先生に作成していただいた資料を基に簡単なお話をさせていただきました。

みなさん、終始笑顔で楽しく参加されていたのが印象的でした。我々の講習会の後は、学食で食事をされ、その後大学の施設見学をされ大崎に戻られたと聞きました。大崎市の震災復興に少しでも役立ってくれることを切に願います。

＜報告：体育学科長 仲野隆士＞

チリ・ブラジル報告



6月18日にチリサッカー協会を訪問し、チリの指導者養成学校(Instituto Nacional de Futbol)の校長(Rector Instituto Nacional del Futbol)であるNORMAN BULL氏、指導者養成担当責任者(Director Carrera de Entrenador de Futbol)であるLuis Rodriguez氏(=写真上の右)、12歳以下の指導者養成責任者Ivan Endre氏と会談した。

チリサッカーにおける指導者養成について、資格付与の制度に関する情報や、指導者養成講座で行われている教育内容・編成までかなり詳細に説明をして頂き、会談は4時間以上に及んだ。

現在ブラジルW杯南米予選で4位に位置し(2013年6月27日時点)、南米の中ではブラジル・アルゼンチンの2強に次いで、ウルグアイ等とともに常に強豪国であり続けるチリの育成に関する情報を惜しげもなく話して頂き、また、指導者養成講座で使用している資料やデータを頂戴した。

また、チリサッカー協会内で、旧知の仲である現チリ女子代表監督(元Universidad de Catoricaユース監督兼ダイレクター)のRadonich氏とも会談した。

その後FIFAが2014年ブラジルW杯開催に向けて行っているエコ対策の調査をブラジルにて行い、6月20日にはW杯決勝が行われる予定のマラカナンスタジアム(Rio de Janeiro)(=写真下)を、6月22日にはコンフェデ杯準決勝が行われる予定のミネイロンスタジアム(Belo Horizonte)を視察した。

また、ミネイロンスタジアムではコンフェデ杯グループリーグ予選の日本対メキシコを視察した。

<報告：男子サッカー部監督 吉井秀邦>



2013 新体操競技部ベラルーシ短期研修報告



世界有数の新体操王国であるベラルーシは、著名なメダリストを多数輩出しており、また育成システムも先進的である。一方で同国は、独裁体制など政治的後進性が度々指摘されており、国家主義的色彩の濃いディナモ(総合型スポーツクラブ)を中核とするスポーツ体制には根強い批判もある。本研修を通じては、こうしたベラルーシの先進性と後進性の両面の一端を垣間見ることができた。

他方で本学新体操部員が現地のアスリートと交流を深めながら自らの技術を研鑽できた点は、非常に有意義だったといえよう。また、観劇や見学などを通じて部員が得た刺激や感動もまた、彼女らの創造性や演技力に積極的な影響を与えるものと確信している。研修を通じて得た成果をいかにして本学新体操部の更なる発展に結びつけるか、今後の検討課題としたい。

日程：2013年6月16日(日)ー6月23日(日) (6泊8日)

人員：新体操部部員：11名・教員：4名(朴澤泰治学長・小田圭吾講師・山梨雅枝講師・河野未来新助手)

現地にてエレナ新体操部コーチ、丹羽涼子助教と合流

<主たる研修内容>

新体操部と現地新体操プレイヤーとの合同練習

(於：ベラルーシ国立スポーツ大学・マニージュスポーツクラブ・ディナモスポーツクラブ)

ベラルーシ国立バレエ団およびサーカス団による公演観劇

ミンスク副市長への表敬訪問仙台

ベラルーシ交流記念公園の見学

<報告：新体操競技部 副部長 山梨雅枝>

OG千田理愛さん(H18年健康福祉学科卒—明成高校出)からの便り



私は仙台大学を卒業してから愛知県の教員として高校生に福祉を教えています。大学生のときに海外でボランティアをしたいという夢を持っていましたが、なかなか実現することができませんでした。今回、青年海外協力隊の現職教員特別参加制度を利用し、

2012年6月から私は青年海外協力隊のボランティアとしてタイの東北部にある

ナコーンラチャシーマー県にある女性保護・職業訓練センター（施設名バーンナーリーサワッド=写真上）で活動しています。

この施設では人身取引被害に遭った女性（未成年の売春、児童労働、暴力、貧困、家族との死別など）が保護され、共同生活を送り、あわせて職業訓練を受け社会復帰を目指しており、現在は、タイ人、ラオス人のおよそ80人が保護されています。

私はその施設の中で、入所者の少女たちが少しでも楽しく生活できるように、レクリエーションやスポーツ、手工芸、日本文化の紹介などさまざまなアクティビティーを行っています。簡単に言うとなんでも屋のような感じです。タイへ来たころは言葉（タイ語）もあまり通じず、伝えたいことが伝えられなかったり、いろいろ悩みましたが、現在、タイへ来て1年が過ぎ、多くの人に助けて頂きながらタイの良さも味わえるようになりました。例えば、この施設へ来る少女たちは自分の意思ではなく売春をさせられたり、工場で働かせられたりときさまざまな境遇を経て保護されました。しかし、施設ではとびっきりの笑顔で、さらにタイ人らしい人懐っこさでいつも明るく笑い声が絶えません。タイの人は本当に笑顔ですごしていることが多く、私が困っていると「チューアイドゥーアイ（私も手伝うよ）」と言ってさっと手を貸してくれます。また、何かハプニングや困ったことがあっても「マイペンライ（大丈夫だよ）」と言って助けてくれます。その優しさに助けてもらいながら活動できることに感謝しています。

ボランティア活動を通してタイの文化を知り、驚くこともあります。さらに施設における少女たちの生活が向上するよう残りおよそ8ヶ月の任期を楽しみながら施設の職員と協力し、頑張っていきたいと思います。

仙台大学硬式野球部—2季連続新人戦優勝



3番・松本がセンターオーバーへの一打を放って、サヨナラ勝ちとした



サヨナラ勝ちの瞬間、抱き合って喜ぶ仙台大ライン



9回1死一二塁から2番手で登板し、4回1/3を無失点に抑えた影浦投手

6月2日（日）、東北福祉大学野球場で仙台六大学野球春季新人戦準決勝と決勝がダブルヘッダーで行なわれ、準決勝で仙台大学が4-3（タイブレーク11回）で東北福祉大学にサヨナラ勝ち。決勝は東北学院大学と対戦し、息詰まる投手戦となりました。

あらかきゆうや

仙台大学の先発投手は、荒木雄哉（体育学科1年—長崎・清峰高校出）。荒木は、130km前半のストレートと変化球を織り交ぜ、コーナーを丁寧に突いて、東北学院大学打線を打たせて取り、9回1/3を無失点4安打7奪三振の見事な投球を見せました。0-0で迎えた9回1死二塁の場面

かげうらまさと

で、2番手・影浦雅人（体育学科2年—北海道・旭川実業高校出）と交代。影浦は、このピンチをサードファールフライと三振に抑え、試合は0-0のまま延長戦に突入。

延長13回表、影浦が2死二三塁のピンチを招

くまばらけんと

いたところで、3番手・熊原健人（体育学科2年—宮城・柴田高校出）が登板。この最大のピンチを熊原が3球三振に仕留め、精神的な強さを見せました。

0-0で迎えた延長14回裏仙台大学の攻撃は、

ないとうりょうた

先頭の1番・内藤諒太（体育学科2年—栃木・作新学院高校出）が中安打で出塁。続く2番・

いむらともき

居村知生（健康福祉学科2年—福島・小高工業高校出）がしっかり送りバントを決め1死二塁。3

まつもともたろう

番・松本桃太郎（体育学科1年—北海道・北海高校出）が、外に逃げていく難しいチェンジアップをセンターオーバーへ放ち、仙台大学は東北学院大学に1-0でサヨナラ勝ち。仙台大学は、2試合連続のサヨナラ勝ちで、2季連続新人戦優勝を飾りました。

決勝でサヨナラ打を放った松本は「ここで決めるという強い気持ちで打席に入った。投手陣が踏ん張っていたので、サヨナラ打を打って嬉しい」と話し、最大のピンチを3球三振に仕留めた熊原は「緊張しなかった。3球三振の場面はすべてストレート。キャッチャーのサイン通り投げた。スタンドとベンチが一丸となった結果、優勝を掴み取ることができた」と話しました。

引き続き、仙台大学硬式野球部の活躍にご期待ください。

第22回河北レガッタ―男子エイト・女子クオドルプルでアベック優勝



一般・大学男子エイトを制した仙台大学漕艇部(男子)



一般・大学女子かじ付きクオドルプルで優勝を飾った仙台大学漕艇部(女子)

6月7日(金)～9日(日)にかけて、宮城県長沼ボート場(国際A級公認コース)で「第22回河北レガッタ」が行われました。

仙台大学漕艇部は、一般・大学男子エイトで2年連続優勝(タイム:6分17秒37)。一般・大学女子クオドルプルで2年ぶりの優勝(タイム:7分37秒88)。仙台大学漕艇部は見事アベック優勝を果たしました。

男子エイト決勝は、序盤から東北大学Aにリードを許す展開。残り250m付近の最後の苦しい区間で逆転に成功しました。

男子エイトで2年連続優勝を飾った漕艇部

(男子)の外崎海舟主将(U23世界ボート選手権大会男子シングルスカル日本代表/体育学科4年―青森・むつ工業高校出)は「連覇できて一安心。もっと8人の息を合わせることが課題。課題を常に意識して練習していきたい。全日本大学ボート選手権大会(インカレ)で優勝を目指す」。女子クオドルプルで圧倒的な強さを見せ

た漕艇部(女子)の前田佑美主将(体育学科4年―静岡・新居高校出)は「優勝は正直嬉しい。序盤から果敢に攻めの姿勢を見せることができた。インカレでも優勝をねらう」とそれぞれ力強く今後の抱負を語りました。

今大会には、柴田町ボート協会の皆様も応援に駆け付け、大きな声援を送って下さいました。どうも有難うございました。

これからも、インカレ優勝を目指し練習に励む仙台大学漕艇部に、皆様からの熱い応援を宜しくお願い致します。

仙台大学陸上競技部の佐々木琢磨が「第22回夏季ソフィアデフリンピック」日本代表に選出



デフリンピックに向け、練習に取り組む佐々木
=仙台大学陸上競技場

ささきたくま
本学陸上競技部の佐々木琢磨(健康福祉学科2年―盛岡聴覚支援学校出)が、2013年7月26日(金)～8月4日(日)にかけてブルガリアで開催される

「第22回夏季ソフィアデフリンピック」陸上競技男子200mと4×100mの日本代表に選出されました。

デフリンピックは、ICSD(国際ろう者スポーツ委員会)が主催し、4年に一度行われる聴覚障害者による国際的なスポーツ大会です。佐々木は、両側内耳性難聴による聴覚障害2級のろう者。

高校3年時に全国ろう者体育大会で100m・200m・4×100mで三冠を達成した佐々木は、「大学に入学してから左ハムストリングの肉離れを3回起こしている。不安はあるが、デフリンピックの200mでは後半勝負したい。4×100mでは、

チームワークを発揮してメダルを獲りたい」と意気込みを語りました。



陸上日本選手権女子ハンマー投げ—OG佐藤若菜選手が3年連続3位



左から朴澤学長、OG佐藤選手、藤井部長

6月9日（日）、「味の素スタジアム」（東京都調布市）で陸上の日本選手権が開催され、女子ハンマー投げさとうわかなでOG佐藤若菜選手（宮城教員クラブ／H22年体育学科卒—福島・相馬東高校出）が最終6投目で自己ベスト

を73cm更新する59m10cmを記録し、3年連続で3位に入りました。

6月12日（水）佐藤選手は、恩師である本学陸上競技部の藤井邦夫部長と共に同選手権3位の報告に学長室を訪れました。

佐藤選手は「昨年10月に行われた国体で3年ぶりに自己ベスト（58m37cm）を更新し、2位に入ったことが自信につながった。今回は試合前の調整がうまくできた。自分に負けないように投げることを強く意識して投げた結果、3位に入ることができた」と試合を振り返り、「母校の仙台大学で練習をさせて頂き、勤務先（宮城県立船岡支援学校）ではいつも皆様が身体の心配をしてくさきり、温かく応援してくれている。自分を支えて下さっている沢山の人たちへの感謝の気持ちを忘れず、仕事と競技の両立を怠らず、次の試合では目標の60m台を投げたい」と力強く今後の抱負を語りました。

陸上競技部の加藤由希子が「2013IPC陸上競技世界選手権大会」に出場



IPC陸上競技世界選手権大会に向け、練習に励む加藤
=仙台大学陸上競技場

かとうゆきこ
本学陸上競技部の加藤由希子（健康福祉学科2年—宮城・気仙沼女子高校出）が、平成25年7月16日（火）～28日（日）まで、フランス・リヨンで開催される「2013年IPC陸上競技世界選手権大会」女子やり投げの日本代表選手として出場することが決まりました。

IPC陸上競技世界選手権大会は、国際パラリンピック委員会により創設された障害を持つ選手による陸上競技大会。身体障害を持つ選手による競技種目と知的障害を持つ選手による競技種目があります。加藤は、生まれつき左腕がなく、左腕が義手のアスリートとして女子やり投げに出場します。

障害者女子やり投げの日本記録（32m83cm）を持ち、初の国際大会を前に加藤は、「平成28年に開催されるブラジルパラリンピックリオ大会出場を目指し、日々のトレーニングに励んでいる。しっかりと腕を振り切り、自己ベストの更新とメダルを狙いたい」と大会に向けての抱負を力強く語りました。

女子柔道部、全日本学生柔道優勝大会 —準優勝校「山梨学院大学」に1—3の逆転負け



次鋒の鈴木が試合終了間際に「技あり」を奪って優勢勝ち
=日本武道館

6月22日（土）、団体戦(5人制)で争う「全日本学生柔道優勝大会（女子22回）」が日本武道館（東京都千代田区）で開催され、本学女子柔道部は優勝候補の一角、山梨学院大学と対戦しました。

仙台大学は、先鋒の伊藤美麗（現代武道学科3年—静岡・藤枝順心高校出）が相手の全日本学生柔道体重別選手権優勝選手に食らいつき、「引き分け」に持ち込む粘りを見せました。次鋒の鈴木真佑（体育学科3年—京都文教高校出）は、試合終了間際に大内刈りで「技あり」を決め、見事「優勢勝ち」。仙台大学が先制します。しかし、中堅の瀬戸美里主将（体育学科4年—宮城・東北高校出）が、相手の世界ジュニア柔道選手権2位の選手に「一本負け」喫し、1—1のタイ。続く、副将の松本友紀子（体育学科4年—東大阪大敬愛高校出）も相手の世界ジュニア柔道選手権優勝選手に一本負け。1—2と逆転され、大将の工藤真弓（体育学科4年—青森・五所川原農林高校出）も一本を取られ、1—3で初戦敗退となりました。

対戦相手の山梨学院大学は、同大会で準優勝。強豪校相手に本学女子柔道部は、必死に食らいついていました。今後、さらにチームの強化を目指し、努力する本学女子柔道部への温かいご声援を宜しくお願い致します。